

発寒ひかり
保育園だより

2024年
1月号

巻頭言

先月、きりんぐみ（5歳児）にとって保育園生活最後のクリスマス親子お祝い会が終わりました。本番が近づいたある日、「どきどきする・・・」「しゅわ、まちがったらどうしよう」と心配する友だちに、「まちがってもいいんだよ」「にこにこでやるのがだいじなんだよ」と周りの子が励ます姿がありました。上手くやろうとするより、どんな気持ちで伝えるかの方が大切だと、子どもたち自身が感じているようでした。

伝え方まで考えられるようになった子どもたちと、「花は咲く」の歌ができた背景についても話をしました。震災で家族と別れたり、住む場所がなくなったり、多くの人が悲しい気持ちになったこと。そんなときに「花は咲く」という歌をうたうことで一人ではないと、気持ちを一つに頑張ったこと。背景を知った子どもたちにも、どう歌いたいか聞いてみると、「みんながしあわせになるようにうたいたい」「こころをこめてうたいたい」「えがおになるようにうたいたい」と一人ひとりが感じたことを話してくれました。子どもたちもさまざまな活動を通して、一人ではできないことも、友だちと一緒になら頑張れるということを振り返る機会となりました。

子どもたちの心の成長を感じたとともに、相手の気持ちを考えてることを大切にしてきたからこそ、歌や手話の意味を理解し、気持ちを込めて歌えたのだと思います。これからも一人ひとりが自分のことを大切に感じ、思いやりの気持ちを持ち続けていけるよう、日々の中でたくさん愛情を伝え、心を育てるかわかりをしています。

きりん組担任 太村 朱里